

記入要領

I 様式第4号(その1)「履歴書」

- ① この書類は、学長及び当該申請に係る学部、学科等の授業科目を担当する専任教員について作成すること(その2)の書類において同じ。)(様式注)
- ② 外国人の場合は、母国語で記入して差し支えないが、その場合は訳文を添付してください。(以下同じ。)(留意点)

1. 「氏名」欄

- ① 略字等を使わず、印鑑登録証明書等に記載されている表記で氏名を記入してください。
- ② 外国籍の人は、パスポートに記載された表記で氏名を記入してください。
- ③ 結婚等により改姓している人は、旧姓も併記してください。
- ④ 性別は、該当する方を○で囲んでください。

2. 「生年月日(年齢)」欄

就任時の満年齢を記入してください。(様式注、留意点)

- ・ 生年月日は、年号で記入してください(以下、年号で記入することについて同様)。
例：昭和○年○月○日(満○歳)

3. 「現住所」欄

都道府縣市町村番地を記入してください。

4. 「月額基本給」欄 ※記入しないでください

~~当該申請に係る学部、学科棟への就任時の予定額(単位千円)を記入してください。(様式注)~~

5. 「学歴」欄

- ① 大学若しくは高等専門学校卒業又はこれらと同等以上と認められる学校卒業以上の学歴を有する人は、これらの学歴のすべてについて記入し、その他の人は、最終学歴について記入してください。(様式注、留意点)なお、学位、称号等についても記入してください。(様式注)
 - ・ 卒業証書等を確認し、大学の学部、学科、課程、専攻、コース及び大学院の研究科、課程、専攻、コース、学位の種類等を正確に記入してください。
 - ・ 高等学校卒業以降の卒業・修了に関して記入してください。留学、中途退学等については入学時を省略せずに明記してください。
 - ・ 看護婦学校養成所等も含めて記入してください。
- ② 博士課程を出て未だ博士号を取得していない人の学歴は、「博士課程単位取得満期退学」と記入してください。(留意点)

- ③ 大学の別科、専攻科については「学歴」欄に、研究生、聴講生等は「職歴」欄に記入してください。（留意点）
- ④ 学位、称号の他、医師、歯科医師、薬剤師、看護師、教員等の資格等についても「学歴」欄に記入してください。この場合、登録番号等も付記してください。（留意点）
- ・ 看護師の他、保健師、助産師も含めて記入してください。
 - ・ 学位、称号等は、表記を正確に記入してください。
 - ・ 博士の学位については、授与大学、登録番号も記入してください。
- ⑤ 外国における資格については、正確に記入するとともに、その資格の内容について併記してください。（留意点）
- 資格名の原語も併記してください。
- ⑥ 外国留学については、学生としての留学の場合は「学歴」欄に記入し、研究者としての留学の場合は「職歴」欄に記入してください。（留意点）

（「学歴」欄記入例）

昭和〇年〇月	〇〇看護学校卒業
昭和〇年〇月	看護婦免許（第〇号）
昭和〇年〇月	〇〇大学〇〇学部〇〇学科卒業
昭和〇年〇月	中学校教諭一級普通免許 保健 昭和〇中一級普〇号（〇〇教育委員会）
昭和〇年〇月	高等学校教諭一級普通免許 看護 昭和〇高二級普〇号（〇〇教育委員会）
昭和〇年〇月	〇〇大学大学院〇〇研究科（修士課程）〇〇学専攻修了（〇〇学修士）
昭和〇年〇月	〇〇大学大学院〇〇研究科（博士課程）〇〇学専攻単位取得満期退学
昭和〇年〇月	〇〇国 〇〇大学大学院〇〇専攻（修士課程）（大学、専攻等の名称の原語を付記）留学（昭和〇年〇月まで）
昭和〇年〇月	〇〇学修士（学位の名称を原語で付記）（〇〇国 〇〇大学）
昭和〇年〇月	〇〇学博士（〇〇大学第〇〇号）
	※学位名称は、学位記を確認してください。

6. 「職歴」欄

- ① 職歴のすべてについて記入し、職名、地位等についても明記してください。自営業、主婦、無職等についても省略しないで「職歴」欄に記入してください。（様式注、留意点）
- ② 「職歴」は、各職歴について、在職期間が明確になるように記入してください。なお、現職については、必ず「（現在に至る）」と明記してください。（留意点）
- 年月の欄に始期を記入し、各職歴の末尾に終期を「（昭和〇年〇月まで）」「（現在に至る）」というように（ ）で記入してください。
- ③ 担当科目に直接関係のある職歴については、できるだけ具体的に記入してください。（例 看護学科の教員で看護師経歴のある人の当該看護師時の勤務病棟等）（留意点）
- 後掲の記入例参照

- ④ 大学等の教員の職歴については、主な担当科目を「 」で付記してください。(留意点)
 非常勤講師としての職歴についても、担当科目を付記してください。
- ⑤ 過去における大学設置・学校法人審議会(旧大学設置審議会を含む。)の教員組織審査において教員の資格があると認められた人は、審査年月、大学名(学部学科名・研究科専攻名を含む)、専任・兼任・兼任、職名及び担当授業科目名を記入してください。大学院にあっては、判定結果(D◎、D合、M◎、M合、可)を記入してください。(様式注、留意点)
- ⑥ 研究生、聴講生等は、職歴欄に記入してください。(留意点)
- ⑦ 研究者としての留学の場合は「職歴」欄に記入してください。(留意点)
 研究者としての留学の他、研修、出張、研究員についても、職歴欄に記載し、その際、渡航先国名、大学名、研究機関名、主目的等を併記してください。

(「職歴」欄記入例)

昭和〇年〇月	〇〇大学大学院〇〇学研究科研究生(昭和〇年〇月まで)
昭和〇年〇月	〇〇大学〇〇学部助手(昭和〇年〇月まで)
昭和〇年〇月	〇〇国 〇〇研究所出張(〇〇〇〇のため)(昭和〇年〇月まで)
昭和〇年〇月	〇〇大学〇〇学部専任講師「〇〇学」「〇〇演習」(昭和〇年〇月まで)
昭和〇年〇月	〇〇大学〇〇学部非常勤講師「〇〇学」「〇〇演習」(昭和〇年〇月まで)
昭和〇年〇月	大学設置・学校法人審議会の教員組織審査において〇〇大学〇〇学部〇〇学科専任助教授「〇〇学概論」「〇〇学演習」の資格有りと判定
昭和〇年〇月	〇〇大学〇〇学部〇〇学科専任助教授「〇〇学概論」「〇〇学演習」(平成〇年〇月まで)
平成〇年〇月	〇〇大学〇〇学部〇〇学科専任教授「〇〇学概論」「〇〇学総論」(平成〇年〇月まで)
平成〇年〇月	〇〇国 〇〇研究所客員研究員(文部省在外研究員)(平成〇年〇月まで)
平成〇年〇月	大学設置・学校法人審議会の教員組織審査において〇〇大学大学院〇〇研究科(修士課程)専任教授「〇〇学」「〇〇学特講」M◎の資格有りと判定
平成〇年〇月	〇〇大学大学院〇〇研究科(修士課程)専任教授「〇〇学」「〇〇学特講」(現在に至る)

(「職歴」欄記入例(看護婦経歴等))

昭和〇年〇月	〇〇立〇〇病院小児病棟看護婦(昭和〇年〇月まで)
昭和〇年〇月	〇〇立〇〇病院外科病棟パートタイム看護婦(昭和〇年〇月まで)
昭和〇年〇月	〇〇立〇〇病院〇〇病棟主任看護婦(昭和〇年〇月まで)
昭和〇年〇月	〇〇立〇〇病院〇〇病棟実習指導者(昭和〇年〇月まで)
昭和〇年〇月	〇〇立〇〇病院副看護部長(昭和〇年〇月まで)
昭和〇年〇月	〇〇立〇〇病院看護部長(現在に至る)

7. 「学会及び社会における活動等」欄

- ① 本人の専攻、研究分野等に関連した事項について記入してください。(様式注、留意点) なお、所属学会名は正確に記載してください。(留意点) また、教育研究上の業績を有する場合は、その内容を具体的に記述してください。(様式注)

所属学会名には、当該学会から脱会していれば終期「(昭和〇年〇月まで)」を、加入が継続していればその旨「(現在に至る)」を付記してください。

- ③ 社会における活動は、例えば、国・自治体等の審議会、委員会等について記入してください。

(「学会及び社会における活動等」欄記入例)

昭和〇年〇月	〇〇学会会員 (昭和〇年〇月まで)
昭和〇年〇月	〇〇学会会員 (現在に至る)
昭和〇年〇月	〇〇学会理事 (現在に至る)
昭和〇年〇月	〇〇県〇〇審議会委員 (昭和〇年〇月まで)
昭和〇年〇月	〇〇学会第〇回〇〇大会〇〇分科会において座長を務める。

8. 「賞罰」欄

- ① 本人の専攻、研究分野に係る主要なものを記入してください。
 ② 教育研究上の受賞がある場合は、受賞年月、受賞内容、授与団体等を記入してください。
 ③ 賞罰がない場合は、「なし」と記入してください。

(「賞罰」欄記入例)

昭和〇年〇月	日本〇〇学会〇〇賞 (〇〇〇〇〇〇〇〇の功績について)
--------	-----------------------------

9. 「現在の職務の状況」欄

- ① 記入日現在における職務の状況について記入してください。(様式注、留意点)

「職歴」欄に「(現在に至る)」と記入した事項についてすべて記入してください。

- ② 「専任」「兼任」「兼任」の別について

当該大学等の専任の教員が、2以上の学部/学科、短期大学の学科もしくは大学院の専攻にわたり授業を行う場合は、1の学科等に限り専任とし、その他は兼任とすること。(様式注)

当該専任大学以外の大学等の授業を担当している場合は、兼任(=非常勤)となります。

- ③ 「毎週担当授業時間数」は、当該科目が前期のみ又は後期のみの開講の場合は、前期又は後期の時間数を、集中講義の場合は、総時間数を記入し、その旨を「備考」欄に記入してください。

(留意点)

- ・ 時間数について、90分授業は、2時間でカウントしてください。
- ・ 通年の場合は、その旨備考欄への記入は不要です。
- ・ 実験・実習やオムニバス方式による授業などで、学期の一部の期間を担当する場合は、担当時間数を、通年のときは30週、半期のときは15週で除した時間数を記入してください。

例： 後期開講の実習で、ある教員が10時間を担当する場合。

10 (時間) ÷ 15 (週) = 0.66... ≈ 0.7

④ 教員以外の方は、勤務先、職名の欄のみ記入するとともに、現在の職務内容を「備考」欄に簡潔に記入してください。(留意点、手引き)

後掲の記入例参照

⑤ 自営業、主婦、無職等についても省略しないで「職歴」欄に記入してください。(留意点)

⑥ 「氏名」の欄のⓂは、本人の署名をもって代えることができます。(様式注)

(「職務の状況」欄記入例)

勤務先	職名	学部、学科 (所属部局) の名称	担当授業科目名	毎週担当授業時間数				備考
				専任	兼担	兼任	計	
〇〇大学	教授	〇〇学部	〇〇〇	2			2	前期
		〇〇学科	〇〇	0.7			0.7	
			〇〇〇	2			2	
〇〇大学	教授	大学院	〇〇〇	2			2	後期
		〇〇学類	〇〇〇〇	2			2	
		〇〇専攻						前期
〇〇大学	非常勤講師	〇〇学部	〇〇実習		40		40	集中
		△△学科	〇〇		4		4	
〇〇大学	非常勤講師	〇〇学部	〇〇〇			2	2	
		〇〇学科	〇〇〇〇			2	2	

(注) 専任、兼担、兼任ごとにまとめて記入してください。

(「職務の状況」欄記入例 (教員以外の人))

勤務先	職名	学部、学科(所属部局)の名称	担当授業科目名	毎週担当授業時間数	備考
〇〇診療所	パートタイム看護婦	内科 小児科			内科(循環器・呼吸器・内科一般)、小児科(アレルギー等)を有する診療所における外来当直勤務を主とする。

〇〇研究センター	所長				センターの統括、管理、運営及び研究指導
----------	----	--	--	--	---------------------

〇〇県	主任技師	〇〇大学準備室			〇〇大学設立準備
-----	------	---------	--	--	----------

10. 「開設後の職務の状況」欄
記入しないでください。

II 様式第4号その2「教育研究業績書」

- ① この業績書は、教員判定の中心となる書類です。例年、記載内容に不備があり判定できない場合があるので、特に留意すること。（手引き）
- ② この書類は、担当授業科目等に関連する教育上の能力に関する事項、職務上の実績に関する事項及び主要な著書、学術論文等（発行又は発表が予定されているものを含む。）について作成すること。（様式注）
 - ・ ただし、上記にもかかわらず、原則的に全ての研究業績を記入してください。
 - ・ 業績が多数あって、担当授業科目等に関連する主要なもの以外を省略する場合には、教育研究業績書の末尾に「その他、著書○、学術論文○、その他○」と本数のみ記入してください。この場合、当該省略の業績は、審査対象とはなりませんので、ご留意ください。

1. 「教育上の能力に関する事項」「職務上の実績に関する事項」欄

- ① 「概要」の欄には、教育上の能力に関する事項、職務上の実績に関する事項の概要について、教育上の能力に関する事項の各欄、職務上の実績に関する事項ごとに少なくとも200字で具体的に記入すること。（様式注）
- ② ただし、専門大学院に係る設置認可申請にあつては、職務上の実績に関する事項として、本人の当該専門分野に関する実務の経験等について近年の当該分野の実務に関する状況に通じていることなども含め200字にこだわらず、詳細に記入すること。（様式注）
 - ・ 上記専門大学院のみにかかわらず、実務歴のある方は、実務の経験等について詳細に記入してください。
- ③ 「教育上の能力に関する事項」の「5 その他」欄には、1から4に該当するもの以外の事項について幅広く記入すること。（様式注）
- ④ 「事項」の欄については、担当授業科目に関連する教育上の業績及び職務上の業績を年月日順（過去→現在）に簡潔に記入すること。（項目例参照）

（項目例）（以前の様式「職務上の実績」に関する項目例）

○企業、官公庁等の研究者の場合

- ・ 開発した新製品・製法、作物等の新品種などの概要
- ・ 取得した特許等の概要
- ・ 大学との共同研究による研究実績がある場合その概要、成果、当該研究者の役割

○その他企業・団体等関係者

- ・ 国際援助・開発、先端技術、国際金融等高度に専門的な実務に従事した実績

○情報技術関係者の場合

- ・ コンピューターに係る職務歴（職務上のコンピューター活用方法、ソフト・システム開発歴）

○マスコミ関係者の場合

- ・ 執筆した記事の概要
- ・ 制作した番組の概要

○医師や看護婦等医療技術者の場合

- ・ 症例研究会での発表等の活動

○福祉その他社会的活動の関係者の場合

- ・ 参加した活動や団体の名称、活動内容・期間、本人の当該活動における地位

○スポーツ等実技関係者の場合

- ・指導者としての経歴・実績・資格

○芸術関係者の場合

- ・作品の概要

○博物館、美術館等関係者の場合

- ・担当した展覧会の概要
- ・執筆・監修した展覧会図録の概要

○その他全般を通じて

- ・各種の資格取得、受賞等の経歴
- ・大学から受け入れた実習生に対する指導歴（看護・福祉実習、企業実習等）
- ・企業内教育、大学公開講座、社会教育講座の講師としての講義等の概要

⑤実務家教員の特記事項は、教職以外の講演会等の講師等について記載すること。

2. 「著書、学術論文等の名称」欄

① 「著書、学術論文等の名称」の欄については、著書、学術論文及びその他の順に適切に区分し、それぞれ年月順（過去→現在）に、各区分ごとに番号を付して記入すること。（様式注、留意点、手引き）

- ・著書、学術論文等は、（著書）（学術論文）（その他）の3つに区分し、当該見出しを記入の上、その区分ごとに番号（1. 2. …）を付して、年代順（過去→現在）に記入して下さい。

② （著書）

ア 「名称」欄には本の表題を記入してください。

イ シリーズもの（全集、講座、叢書等）の1冊である場合は、表題の下段に（ ）書きでシリーズ名及び当該巻数を付記してください。

③ （学術論文）

ア 論文集、学術雑誌、学会機関誌、研究報告、紀要等に学術論文として発表したものを記入してください。

イ 学位論文については、その旨明確になるよう記入してください。

当該論文の表題の下段に「修士論文」又は「博士論文」と（ ）書きで明記してください。

ウ 査読付き論文の場合は、当該論文表題の下に「（査読付き論文）」等付記してください。

④ （その他）

「翻訳」「辞典」「白書」「年鑑」「学会発表」等を記載してください。その際、それぞれ適宜区分し、小見出しを記入してください。

ア 「翻訳」は、原著者名、邦訳の表題、原語の表題を記入してください。

イ 口頭の「学会発表」は、この欄に記入してください。

3. 「単著、共著の別」欄

- ① 1冊の本を数人で執筆した場合、当該部分は単著であっても共著として整理してください。(留意点)
- ② 「著書」及び「学術論文」は、「単著」又は「共著」と記入し、編著である場合には、特に「編著」と記入してください。
- ③ 「翻訳」「学会発表」等は、「単独」又は「共同」と記入してください。

4. 「発行又は発表の年月」欄

- ① 西暦でなく元号を用いて記入してください。
- ② 学位論文は、大学から学位を授与された年月を記入してください。
- ③ 著書、学術論文等で発行又は学会誌等での発表予定のものについては、その旨を明記し、出版社や学会からのその旨の証明書を添付すること。なお、書類提出時以降に投稿予定のものは含めないでください。(留意点、手引き)
発行又は発表の年月の下に、「刊行予定」「発表予定」等と記入してください。

5. 「発行所、発表雑誌等又は発表学会等の名称」欄

- ① 発表学会誌等は、その名称の他、巻・号まで明記してください。(留意点)
- ② 「学位論文」は、学位を授与された大学名を記入してください。
- ③ 「学会発表」は、学会大会名、開催場所等を「〇〇学会第〇回大会(於〇〇大学)」等と記入してください。

6. 「概要」欄

- ① 「概要」の欄には、著書、学術論文の概要について、各著書、学術論文等ごとに少なくとも200字で記入すること。(様式注)
- ② 著書、学術論文等の概要及び頁数について、各著書、学術論文等ごとに明確かつ簡潔に記入してください。(留意点)
 - ・ 担当予定の授業科目の概要におけるキーワードと、教育研究業績書の概要欄におけるキーワードとが整合するように留意して記入してください。
 - ・ 上記の200字程度という目安は、厳密なものではありませんので、必要にして十分な内容を記述してください。
 - ・ 外国語で記述された業績であっても、「概要」には、日本語で記入してください。
- ② 共著の場合は、本人の担当部分の概要及び掲載頁(例p〇〇～p〇〇)を明記し、また、本人の氏名を含め著作者全員の氏名を当該著書及び学術論文等に記載された順(例：編者△△△△、分担執筆〇〇〇〇、□□□□、××××)に記入すること。(様式注、留意点、手引き)
 - ・ 著作者氏名列挙の際は、本人氏名にアンダーラインを付してください。
 - ・ 共著者があまりに多数の場合は、本人を含め代表的な人を最低10名程度は記載し、残りは「他〇名」としてください。
- ③ 共著の場合でも、本人の担当部分を抽出するのが困難な場合には、その理由を明記してください。(例 共同研究につき本人担当部分抽出不可能)(留意点)
本人の担当部分を頁数等定量的に抽出するのが困難な場合であっても、安易に担当部分抽出

不可能とはせずに、「研究の〇〇〇〇部分を担当」等定性的な記述でも結構ですので、できるだけ本人担当部分を明確化してください。

- ④ 末尾に、著書は判型及び総頁数（「A4判、全 254頁」など）、学术论文は掲載部分の頁（「p. 65～p. 81」など）を明記して下さい。

判型については、外国書等 J I S 規格でないものは、近似の J I S 規格で表現してください。また、刊行物の現物が手元にないなど、判型不明の場合は、未記入でも結構です。

<参考：本の判型> (J I S 規格)

番号	A列	B列
0	841mm×1189mm	1030mm×1456mm
1	594 × 841	728 × 1030
2	420 × 594	515 × 728
3	297 × 420	364 × 515
4	210 × 297	257 × 364
5	148 × 210	182 × 257
6	105 × 148	128 × 182
7	74 × 105	91 × 128
8	52 × 74	64 × 91
9	37 × 52	45 × 64
10	26 × 37	32 × 45

- ⑤ 当該申請に係る学部、学科等の授業科目を担当しない学長等にあつては、「概要」の欄の記入は要しないこと。（様式注）

上記にもかかわらず、できるだけ記載をお願いします。

7. 「氏名」欄

「氏名」の欄のⒺは、本人の署名をもって代えることができること。（様式注）